

施策番号	1201		
施策名	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信		
概要	景観、観光、文化、環境等、京都がもつ魅力を向上させ、世界各国に効果的な情報発信を行うとともに、海外からの訪問者が快適に行動できるよう受入環境の充実に図り、世界中のひとびとを引き寄せるまちとする。		
担当局・部室	総合企画局・国際化推進室	共管局・部室	産業観光局・観光M I C E推進室
上位政策	12 国際化		
施策に関する主な分野別計画等	京都市国際化推進プラン，京都観光振興計画2020，京都市M I C E戦略2020		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		平成30年度	令和元年度	令和2年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウェイト
1	コンベンション参加者数（人）	c	c	156,076	193,585	202,996	95.4%	b	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価		c	c					b	

2 市民生活実感評価

設問		平成30年度	令和元年度							令和2年度※
			評価	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない	有効回答者数	
1	京都には、世界から観光、留学、ビジネス等を目的として訪れるひとびとを引き寄せる魅力と、受入環境がある。	a	b	142 21.3%	308 46.1%	142 21.3%	46 6.9%	30 4.5%	668	-
2	京都は、文化資産の継承、環境にやさしい取組などを通して、平和都市として国際社会に貢献している。	b	b	125 19.3%	286 44.2%	180 27.8%	32 4.9%	24 3.7%	647	-
3	-	-	-							-
4	-	-	-							-
5	-	-	-							-
市民生活実感調査総合評価		a	b							-

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により調査を一時休止しています。

<総合評価>

平成30	B	令和元	B	令和2	B	施策の目的がかなり達成されている
重み付け	☐ 客観指標	世界への京都の魅力発信に対する評価は、市民の意識が重視されるべきであると考え、また、京都の魅力は多岐にわたるものであり、客観指標総合評価では全ての分野が網羅できないため、市民生活実感調査総合評価を重視する。				
	☒ 市民の実感					

<原因分析>

客観指標総合評価

- ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。
☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。

市民生活実感調査総合評価

- ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。
☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>（令和元年度又は令和2年度新規事業）

	事業名	事業費の状況(千円)		令和2年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		令和元年度 決算額	令和2年度 予算額		
1					
2					
3					
4					
5					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・「京都市MICE戦略2020」に基づきMICE助成金制度の拡充や大学との連携強化等に取り組んでおり、この5年で着実に成果として現れていることから、引き続き、これらの取組を進め、更なるMICE誘致・支援に努めるとともに、コンベンション参加者数を更に増加させる。
- ・「京都市MICE戦略2020」は令和2年度に最終年度を迎え、新たな戦略は次期観光振興計画の中で定めることから、計画策定に向けた検討を進める。
- ・「京都市国際化推進プラン～多文化が息づくまちを目指して～」は令和2年度に最終年度を迎える。その後継となるものについて、現プランの在り方から見直し、今後の本市の国際情勢を巡る方針等を市民や国内外の各種団体、関係機関に示すために、新たに「京都市国際戦略指針（仮称）」を策定することとしており、策定に向けた検討を進める。

施策名	1201	世界中のひとびとを引き寄せる京都の魅力の向上と発信				
指標名	コンベンション参加者数（人）					
担当課	観光MICE推進室		連絡先	7 4 6－2 2 5 5		
1 指標の説明						
1年間に京都市域内で開催された会議で、日本を含め3箇国以上から総勢50名以上の参加のあった国際会議に参加した人数						
2 指標の意味						
経済，文化，国際交流等の様々な分野への波及効果を伴う国際MICE都市の実現に向けた進捗状況を示す指標			3 算出方法・出典等			
			出典：京都文化交流コンベンションビューロー「京都開催の国際会議」，日本政府観光局（JNTO）「国際会議統計」			
4 数値						
	前回数値 平成30年	最新数値 令和元年	推移	目標値		
				数値	根拠	達成度
数値	156,076	193,585	37,509人増	202,996	過去5年間の最高値	95.4%
	全国順位	中長期目標				備考
		数値	目標年次	達成度	根拠	
数値	-			-		
5 評価基準						
最新の数値が過去5年間の a：最高値以上 b：上中間値（最高値と平均値の中間値）以上～最高値未満 c：平均値以上～上中間値未満 d：下中間値（平均値と最低値の中間値）以上～平均値未満 e：下中間値未満			6 基準説明			
			各年度の具体的な数値目標の設定が困難であるため、過去5年間の数値の推移で評価する。 最高値 202,996人（平成28年） 上中間値 179,568人 平均値 156,140人 下中間値 142,010人 最低値 127,879人（平成26年）			
7 評価結果						
平成30	令和元	令和2				
c	c	b				